

# 豊浦町地場産品加工研修センター設置実施計画

## 1 現状と課題

平成5年に2級河川である貫気別川流域にインディアン水車公園が整備され、鮭の捕獲、採卵、孵化放流事業を本格的に実施すると共に観察型観光事業を展開する中、平成8年に利便施設(売店)を併設したが、繁忙期のみの営業であり採算性の問題から平成23年度以降閉鎖状態となっている。

平成27年度に、施設を管理する農政振興課と観光振興を担当する水産商工振興課の職員で「インディアン水車公園内利便施設(売店)利活用検討会」を開催し、平成28年度には、農業、漁業、林業、移住者、在豊米国人、自治会、地元企業等が参加した「豊浦町公園施設有効活用検討委員会」を設置し、緊急の課題としてインディアン水車公園施設の利活用について同年10月6日に中間答申を得たところである。これらを踏まえ、「豊浦町インディアン水車公園利便施設(売店)利活用基本計画」に基づき、観光振興と生産性を求めた通年稼働型の複合施設として再生する必要がある。

## 2 豊浦町公園施設有効活用検討委員会中間答申

### 1. 屋内施設(利便施設)の有効活用について

- (1) 加工体験を取り入れ、豊浦町の産品を広くPRすべきと考えます。
- (2) 体験観光やモニターツアーでの試食会に対応できる施設の整備を望みます。
- (3) 提示された計画平面図を検討した結果、観光客などの滞留スペースが狭いので、滞留スペースを広く確保することを望みます。
- (4) 豊浦の新鮮な海産物を提供できる施設の整備を望みます。
- (5) バーベキューやキャンプなど多目的に使える具材を提供できる施設の整備を望みます。
- (6) 事業者を確保するのが先決であり、全国的に公募すべきと考えます。
- (7) 公募等により施設使用の申し出があれば、その事業者と充分協議を行い、計画を進めるべきと考えます。

### 2. 屋外施設の有効活用について

- (1) 観光バスなどがツアーの休憩所に活用できる施設の整備を望みます。
- (2) 従来の稚魚観察・遡上観察に加え、体験放流・体験つかみ取りを企画すべきと考えます。
- (3) 空きスペースを利用したキャンプやバーベキュー等の場を提供すべきと考えます。
- (4) 清流貫気別川の魅力を紹介するラフティングの企画を望みます。
- (5) オジロワシ等のバードウォッチングの企画を望みます。

### 3. その他

- (1) 施設を整備するにあたり、大きくPRすべきと考えます。
- (2) 新しく整備する施設のネーミングについては、広く町民に公募すべきと考えます。

## 3 施設整備の目的

閉鎖状態のまま利便施設(売店)を放置することは、経済面・安全管理面から不適切であり、過去の教訓を参考に6次産業化の先行事業として、通年稼働型の厨房機能を備えた総合的複合施設「地場産品加工研修センター」を併設し、豊浦町における一次産品の付加価値を高めると共に、地域特

製品の開発及びPRを行い、生産者の経営安定と地域の活性化を図り、インディアン水車公園設置当初の計画どおりインディアン水車をメインとした、捕獲・観察・体験・観光型施設としての機能を充実し、「交流人口の増加」「集客力の向上」「生産性の向上」を図る。

#### 4 コンセプト

従来のインディアン水車公園を活用した観光事業の推進に加え、通年稼働を目指した加工品の製造・販売、体験加工、食の開発や、他の関連分野で地域産業を結び付けた新しい仕事を創生する総合的な施設として、豊浦町ならではの地場産品を掘り起こし、これに付加価値を付け他と差別化した特産加工品の開発を行い、本町における6次産業の振興と雇用の場の確保を図る。

- ①他に例のない観察型インディアン水車を保有する優位性・ネームバリューを最大限に活かす。
- ②孵化・放流事業により原材料の安定的確保が可能な鮭と、豊浦町が発祥である噴火湾養殖ホタテを中心に、特産加工品の開発と製品化に努め豊浦産加工品のブランド化を図る。
- ③加工品づくりの体験学習と成果品の直送販売を行い豊浦町の産品を広くPRする。
- ④地場産品を活用した食の開発を行うと共に、モニターツアーや試食会に対応する。
- ⑤繁忙期においてイクラ弁当や鮭鍋などの販売を行う。
- ⑥公園内に多目的に使える施設（バーベキュー、キャンプ）を設置し、厨房を活用して豊浦黒毛和牛・豊浦SPF豚・豊浦野菜などの具材を提供する。
- ⑦従来の稚魚観察・遡上観察に加え、体験放流・体験つかみ取りなどを企画する。
- ⑧豊浦町における鮭の孵化放流事業や、貫気別川水系における淡水魚の生態系について紹介する。
- ⑨毎年飛来するオジロワシや野鳥のバードウォッチングを企画する。
- ⑩清流貫気別川の魅力を紹介するラフティングを企画する。
- ⑪ネット配信及び観光パンフレット・ポスター・パネル等の展示を行い豊浦町の魅力をPRする。
- ⑫インディアン水車公園を含めた豊浦町の各観光施設を点から線へと結び、観光バスや旅行会社へのPR活動を展開し稼げる観光産業の推進を図る。
- ⑬団体客向け有料ガイド（インディアン水車公園の概要・鮭の生態・貫気別川の紹介等）の育成と配置。

#### 5 施設の概要

現有施設の利活用を基本とし、老朽化に伴う腐食・劣化の修繕及び改修を行うと共に、未来への投資と位置付け「稼げる観光の実現」や「6次産業化による町の活性化」を実現するため、通年稼働型の厨房を有する地場産品加工研修施設として整備する。

##### 〔位置、構造、面積〕

- ①位置：北海道虻田郡豊浦町字浜町89-1
- ②構造：木造2階建
- ③面積：1階床面積181.57㎡、2階床面積40.78㎡、延べ床面積222.35㎡

##### 〔1階スペース〕

- ①来客用滞留スペース（写真・パネル・ポスター・パンフレットなどの展示スペース、休憩スペース）の確保。

- ②加工研修施設と、豊浦の新鮮な一時産品を提供できる厨房スペースの確保。
- ③売店スペース（アンテナショップ）の確保。
- ④電気設備の点検・改修と業務用200V電源の設置。
- ⑤防犯・防火対策の再構築。
- ⑥屋内トイレ及び2階への屋内階段の設置。
- ⑦プレハブ冷凍庫の改修
- ⑧寄贈のあった燻製機と、(旧) 札文華中学校の学習用燻製機の移設。
- ⑨業務用流し台と調理台等の設置。
- ⑩真空包装器と業務用冷蔵庫(加工室用・厨房用) の購入。
- ⑪その他必要な備品の購入。

#### [2階スペース]

- ①事務所として改修。
- ②インターネット環境と電話機等の設置。

## 6 施設の運営方法

観光振興や地場産品の加工による起業化や雇用の場の確保を目指す地域拠点として、4シーズンを通して管理・運営する。

- ①施設は豊浦町の直営とする。
- ②一般町民への施設貸出しと技術指導の実施。
- ③プレイヤー（町内・町外）を広く公募すると共に、官民が一体となった「インディアン水車公園運営協議会」を組織し総合的管理・運営を行う。

## 7 効果

遊休施設を有効活用することにより、産業の活性化と雇用の場の提供を行い、交流人口や移住・定住人口を確保し豊浦町に経済効果をもたらす。

- ①遊休施設の利活用が図られる。
- ②観光振興と6次産業化により地域の活性化が図られる。
- ③雇用の場の確保と移住・定住の促進が図られる。
- ④交流人口の増加と観光消費活動の向上が図られる。
- ⑤地域の小売・飲食業やサービス業などの売り上げ向上が図られる。
- ⑥経済波及効果の向上が図られる。

## 8 加工品等の製造に伴う許認可(室蘭保健所)

- ①【水産加工品製造業】食品衛生責任者の設置〔講習会の終了証の提示〕
  - ・スモークサーモン(鮭・ます)、鮭トバ、たらトバ、スモークほたて・スモークい貝、イクラ
  - ・鮭の塩引き、荒巻鮭、干しナマコ（許可不要）
- ②【飲食店営業】食品衛生責任者の設置〔講習会の終了証の提示〕
  - ・イクラ弁当、イクラそば、鮭鍋、焼き肉、しゃぶしゃぶ、料理レシピの開発
  - ・豊浦黒毛和牛、豊浦SPF豚、豊浦野菜等をバーベキュー用具材として提供

- ③【漬物製造業】食品衛生責任者の設置〔講習会の終了証の提示〕
- ④【食肉製品製造業】食品衛生管理者の設置〔資格証明書類の提示〕
  - ・ビーフジャーキー、スモーク豚等の肉類（別施設の設置が必要）

## 9 施設の利用計画

### 1. 来客用滞留スペースを確保し、施設の紹介や町のPRを実施し交流人口の増加を図る

- (1) 写真、パネル、ポスター、パンフレットの展示による情報発信。
- (2) 特産加工品・お土産品・飲食の提供によるワンストップサービスの実施。
- (3) 交流人口の増加目標

※インディアン水車公園入込客〔豊浦町の現況より〕

過去3年間の実績（H25～H27）		計画終了後の目標（H30～H32）		具体的数値目標
年度	人数	年度	人数	実績－目標人数
平成25年度	7,504人	平成30年度	8,254人	750人
平成26年度	7,540人	平成31年度	8,294人	754人
平成27年度	7,993人	平成32年度	8,792人	799人
合計	23,037人	合計	25,340	<b>2,303人</b>

（豊浦町総合戦略に基づき過去3年の実績から10%増と設定する）

### 2. 加工スペースの確保による豊浦産加工品の販売や加工体験の実施

- (1) 豊浦産スモークサーモン・スモークホタテ・イクラなどの商品開発と加工体験の受入れ。
- (2) 加工品の販路拡大。（地元・近隣市町村の「道の駅」へ出品、道内・道外への販売）
- (3) 商品開発は、特産品加工研修センター設置の翌年、平成30年度から平成32年度までの3年間で、年間1商品の最低3商品以上を目標とする。
- (4) 加工資源の概況

※豊浦町の魚種別生産高〔胆振の漁業より〕（数量：トン、金額：千円）

年	24年(1月～12月)		25年(1月～12月)		26年(1月～12月)	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
さけ	512	212,770	586	225,314	592	232,360
マス	7	3,675	8	2,753	7	3,320
タラ	389	15,817	506	29,410	114	6,685
カレイ	294	49,291	348	52,484	282	47,761
ほたて貝	8,915	1,209,798	8,198	1,491,218	8,268	1,890,924

※貫気別川のさけ増殖事業〔胆振の漁業より〕（12月現在）

年	捕獲数(尾)			放流数(千尾)
	雌	雄	計	
平成24年	22,136	18,211	40,347	7,306
平成25年	13,661	10,307	23,968	7,088
平成26年	11,620	7,310	18,930	7,099

### 3. 豊浦の新鮮な一時産品を使った料理を提供できる厨房スペースの確保

- (1) 地場産品を活用した食(レシピ)の開発。
- (2) モニターツアーや試食会への対応。
- (3) 豊浦町の地場産品を使った「食」の提供。
- (4) 豊浦黒毛和牛・豊浦SPF豚・豊浦野菜等の具材提供。

### 4. 売店スペース(アンテナショップ)の確保

- (1) 加工試作品の試験販売とアンケート調査。
- (2) 特産加工品や豊浦グッズの販売。

### 5. 2階スペースをプレイヤー及びインディアン水車公園運営協議会の事務所として確保する

- (1) 総合的複合施設としての管理・運営・事業推進のための拠点として利活用する。
- (2) 更衣室の設置。

### 6. 雇用者数の増加

- (1) 施設の完成・オープンによる事業の効果発現に当たり、当該施設を管理運営するために必要な常用労働者数(最低稼働人数)は、特産加工品の製造・開発に2人、販売及び施設管理に1人の計3人と設定した。

### 7. 関連施設との連携

- (1) 施設「拠点」と有機的連携施設(出品、集客、距離)
  - ・道の駅とようら→虻田郡豊浦町字旭町65-8 (出品、集客、3.1km)
  - ・天然豊浦温泉しおさい→虻田郡豊浦町字浜町109 (出品、集客、2.0km)
  - ・豊浦海浜公園キャンプ場→虻田郡豊浦町字浜町地先海浜地 (集客、1.9km)
  - ・噴火湾展望公園→虻田郡豊浦町字高岡64-1 (出品、集客、2.4km)
  - ・高岡オートキャンプ場→虻田郡豊浦町字高岡海浜地 (集客、2.7km)
  - ・礼文華海浜公園キャンプ場→虻田郡豊浦町字礼文華海浜地 (集客、13.7km)
  - ・豊浦町森林公園→虻田郡豊浦町字礼文華526-1 (集客、16.7km)
- (2) 施設「拠点」と地域産業連携拠点施設〔平成30年度に改修予定〕(相互連携)
  - ・農業研修センター〔大岸小学校(旧)鉦山分校〕→虻田郡豊浦町字大岸442-2(9.3km)

### 8. 費用対効果

農山漁村振興交付金(農山漁村活性化整備対策)費用対効果算定要領に基づき投資効率を算定し2.36となった。

- (1) 3地域間交流効果、(3)農林漁業体験等効果、a 移動費用 →年効果額=205千円  
c 交流体験機会費用 →年効果額=320千円
- (2) 4地域活動効果、(1)コミュニティ活動促進効果 →年効果額=320千円  
(2)地域資源加工効果 →年効果額=12,290千円  
(5)就業機会増加効果 →年効果額=30千円

# 豊浦町インディアン水車公園利便設置改修及び運営に関するタイムテーブル

平成29年度 ⇒⇒⇒

平成30年度 ⇒⇒⇒

平成31年度 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

平成29年4月～9月

利便施設改修工事  
(入札～完成)

1

- 現状の施設・設備・備品の利活用、業務用 200V 電源の設置
- 滞留スペースの確保、アンテナショップスペースの確保
- 【看板・誘導サイン・自販機の設置、観光用ポスター・パンフレット・写真パネル・学習用パネル等の掲示、野鳥・風景写真展の企画】
- 処理室、加工室、厨房、屋内トイレ、屋内階段、2階事務室の設置
- 電話機、インターネット環境の整備、事務機器、備品、消耗品の購入

平成29年4月～9月

オープンに向けての準備作業  
(管理条例の制定、許認可事務)

2

- 室蘭保健所への許認可事務、食品衛生責任者の育成
- 管理条例・規則の策定(4月議会に上程)
- プレイヤーの募集【指定管理契約内容の検討、指定管理契約の締結】
- 官民一体型「運営協議会」の設置  
【行政、漁協、漁業者、観光ネットワーク、道の駅、プレイヤー外】  
【設置要綱の制定、編成準備、設立、施設の利用計画の策定】
- 施設の愛称公募【川の駅等】
- オープン【セレモニー、施設見学会(一般公開)】

平成29年10月～30年3月

利便施設改修工事完了  
から6カ月(冬季)

3

- インディアン水車公園の管理・運営(冬期間の利活用)
- 観光振興事業への対応(ホームページの制作、PR、モニターツアー、集客活動)
- 施設の開放(個人・団体への一般開放)
- 特産加工講習会、料理教室(レシピ開発)、プレイヤーによる試作品づくり・試食会

平成30年4月～31年3月

運営協議会とプレイヤーによる管理  
運営体制の構築(春・夏・秋・冬)

4

- 観光振興事業への対応【体験観光等】
- アンテナショップによる試作品の販売  
アンケート調査、一般開放
- 特産加工品の製品化・販売・販路拡大

**— インディアン水車公園の運営 —**

春⇒稚魚の観察・体験放流、キャンプ、バーベキュー、増水期の急流ラフティング、バードウォッチング(青サギ・アイガモ・白鳥・小型水鳥)、青マスの加工、ホタテ稚貝・い貝・カレイ類の加工【体験含む】

夏⇒キャンプ、バーベキュー、湧水期の清流ラフティング

秋⇒成魚の観察・つかみ取り体験、鮭・イクラの加工

冬⇒トレッキング、バードウォッチング(オジロワシ)、鮭・タラ・ホタテ成貝・はね物等の加工【体験含む】

「試食会・アンテナショップ・アンケート調査」

平成31年4月～

- インディアン水車公園を拠点とした観光振興事業の推進 **DMOとの連携**
- 地域産業の推進 **農業研修センターとの連携**
- 特産品の販売 **利便施設・道の駅・展望塔外**
- 一般開放 **個人・団体**

5

(6)

